

2021年2月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度をみると、極渦はシベリア側と北米側に分裂し、北極付近は正偏差となった。アラスカの南海上～北米～ユーラシア大陸西部では波列パターンが明瞭となり、北米中部では負偏差となった。ヨーロッパ南部～東アジアでは帯状に正偏差となった。200hPa 風速をみると、ユーラシア大陸上では亜熱帯ジェット気流は平年より弱く、寒帯前線ジェット気流は明瞭だった。日本の東海上や北米～北大西洋では偏西風が平年より強かった。海面気圧をみると、北極付近やアラスカの南海上で正偏差、ヨーロッパの西海上で負偏差となった。シベリア高気圧は平年より弱く、アリューシャン低気圧は平年と比べて北西側に位置した。850hPa 気温をみると、ヨーロッパ南部～東アジア、カナダ東部で高温偏差、ロシア西部～中央シベリア、アラスカ～米国中部で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、フィリピンの東～インドネシア付近、ニューギニアの東で活発、インド洋赤道域の東部、太平洋赤道域の日付変更線付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半に太平洋西部に位置したが、その後は不明瞭となった。対流圏上層では、ユーラシア大陸南部～日本の南東海上で高気圧性循環偏差、太平洋熱帯域の中部～東部で南北半球対の低気圧性循環偏差と

なった。対流圏下層では、インド洋～インドネシア付近で南北半球対の低気圧性循環偏差となった。海面気圧は、赤道域では、太平洋中部～東部で正偏差、インド洋～太平洋西部、大西洋で負偏差となった。南方振動指数は+1.0だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.17°C（速報値）であった。2月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.82°C/100年（速報値）である。

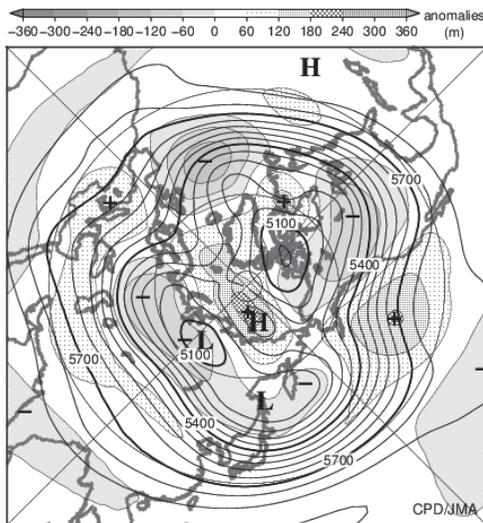
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東アジア東部～南アジア北西部、中東北西部及びその周辺、ヨーロッパ南西部～北アフリカ北部で異常高温、北米中部～南部で異常低温となった。
- 中央シベリア南部～西シベリア南部、ヨーロッパ西部で異常多雨、パラグアイ～アルゼンチン東部で異常少雨となった。

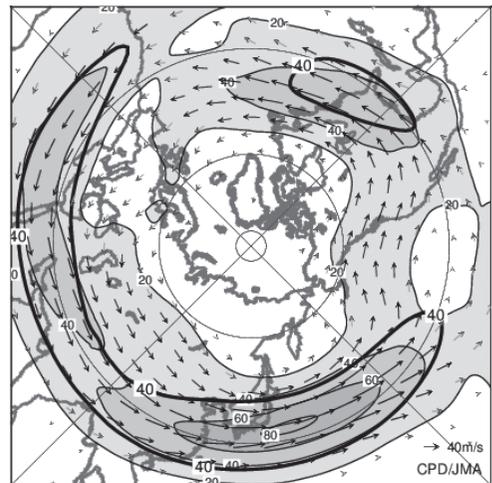
（気象庁 大気海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

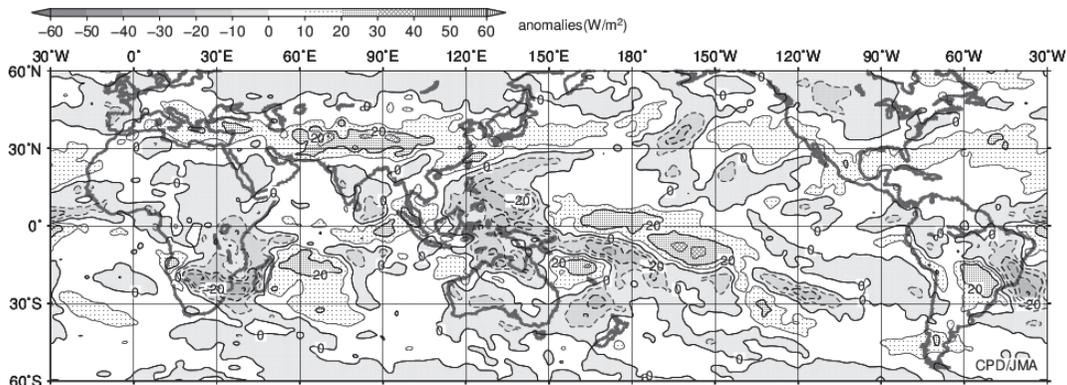
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2021年2月の北半球月平均500hPa 高度及び
 年偏差
 等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は
 1981～2010年の平均値。

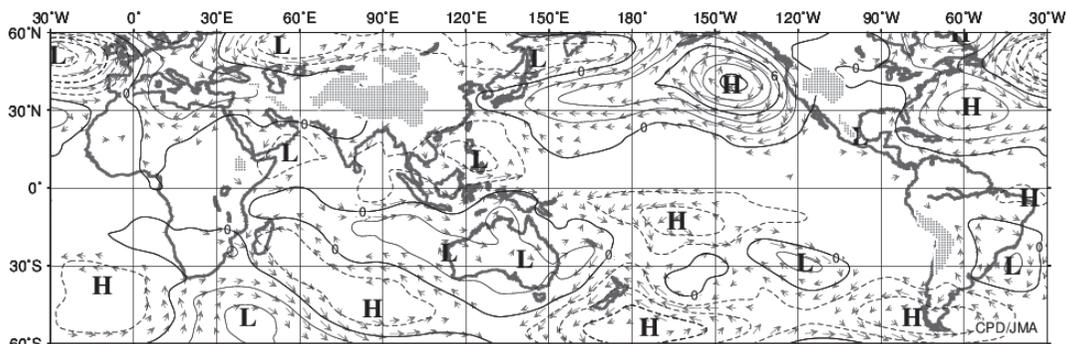


2021年2月の北半球月平均200hPa 風速及び
 風ベクトル
 等値線間隔は20m/s。太実線は平年の風速で等値
 線間隔は40m/s。年偏差は1981～2010年の平均値。



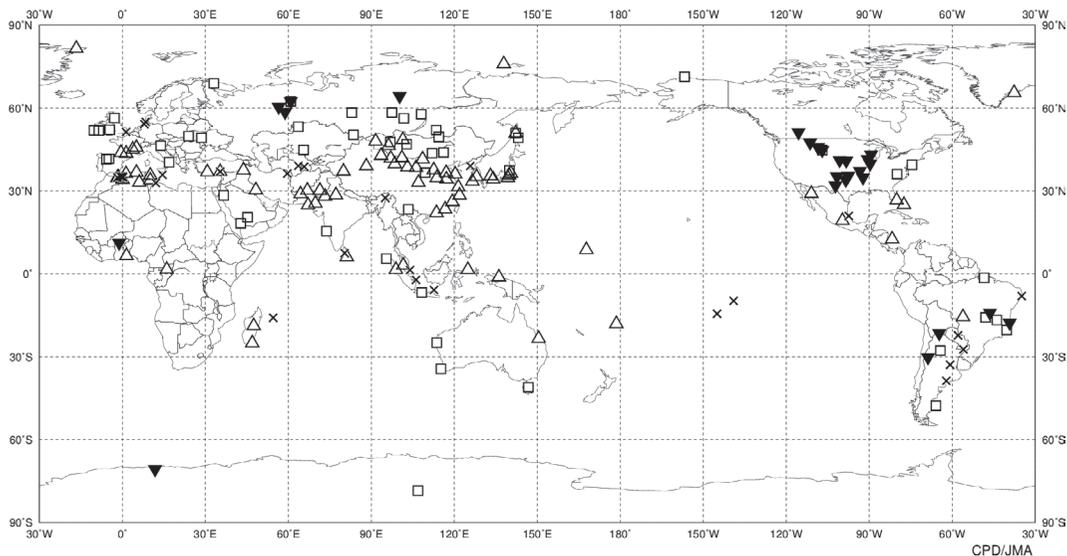
2021年2月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2021年2月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2021年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。